

新潟大教育 五十嵐由利子

＜目的＞ 積雪地域における結露は、冬季に多く発生している。低温高湿な屋外の気候がその要因のひとつとなっているとも思われるが、結露防止のためには、それに対応した住宅の性能や住み方が要求される。本報は冬季の結露発生の要因を暖房方法との関わりの中から検討する。

＜方法＞ 札幌、秋田、新潟、長岡、上越、金沢の6地域の小学校、高等学校、計19校の家庭を対象にアンケート調査を1986年4月に行った。回収数は1888戸であった。

＜結果＞ 1) 使用暖房器具：札幌ではセントラルヒーティング、煙突付ストーブなど設備化された器具が多く、移動できる開放型石油ストーブは少なく、ガスストーブは皆無であった。一方、他の地域では開放型石油ストーブの使用率が高く、1住戸に2台以上の家が多かった。また、新潟県の3地域ではガスストーブの使用率も高かった。

2) 全般的な結露発生状況：長岡が高く、新潟、札幌がやや低い傾向にあり、また、札幌では暖房室より非暖房室における結露発生率が高く、他の地域では暖房室の方が高かった。

3) 使用暖房器具別・結露発生率：必ずしも密閉型暖房器具の方が結露発生率が低いという傾向ではなかった。これには暖房中の生活行為や住宅の性能なども関連していると考えられるが、主な暖房器具については次の通りであった。a) FFストーブ：札幌が10.5%と高く、最も低い新潟のほぼ倍くらいの発生率、b) 開放型石油ストーブ：秋田が10.7%と高く、上越が3.9%、他の地域は5%から6%くらいの発生率、c) 開放型ガスストーブ：最高が長岡の5.4%で、長岡と上越では石油ストーブの発生率より少し高い発生率であった。